

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.4
Q1 室内環境								3.9
1 音環境				2.9	0.15	3.0	1.00	2.9
1.1 騒音				3.0	0.49	3.0	0.50	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	0.50	
2 設備騒音対策				-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音				3.0	0.49	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				1.0	0.01	3.0	-	
2 温熱環境				2.0	0.35	5.0	1.00	4.4
2.1 室温制御				3.0	0.50	5.0	1.00	
1 室温				3.0	0.62	-	-	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能		年間断冷房計算を実施。年間単位負荷460以下。		3.0	0.37	5.0	1.00	
4 ゾーン別制御性				3.0	0.01	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				1.8	0.25	4.0	1.00	3.6
3.1 昼光利用				1.8	0.31	4.0	0.50	
1 昼光率		住宅の居室に自然光を積極的に取り込んでいる。昼光率2%以上		1.0	0.57	5.0	0.50	
2 方位別開口				-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備				3.0	0.43	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				2.0	0.28	4.0	0.50	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御		住宅の開口部は庇とカーテンによる昼光制御を行っている。		2.0	1.00	4.0	1.00	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	0.14	-	-	
3.4 照明制御				1.0	0.26	-	-	
4 空気環境				4.1	0.25	4.0	1.00	4.0
4.1 発生源対策				5.0	0.59	5.0	0.63	
1 化学汚染物質		全面的にFの建材を使用。ホルムアルデヒド以外のVOCについても少ない建材を使用する。		5.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.0	0.39	2.3	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				3.0	-	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理				1.0	0.01	-	-	
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	
2 喫煙の制御				1.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.3
1 機能性				3.7	0.40	3.6	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		各住戸100Mbitクラスのブロードバンド利用可能。		3.0	-	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.8	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観				1.0	0.02	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				1.0	0.02	-	-	
3 内装計画		明確なコンセプト提示。スケッチパース、材料の提示により、照明計画も含め総合的にインテリアデザインの提案を行っている。		5.0	0.96	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		外部金属部材の防錆処理。段差を極力設けない。風除室の一次扉と二次扉間の距離を確保。		4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.3	0.31	-	-	3.3
2.1 耐震・免震				3.4	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		基礎免震採用。		5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		住宅性能評価の劣化等級は3等級相当。		5.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		主な内装仕上げ材はビニルクロス、タイル、天然石等		4.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性		3.0	0.19	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性		3.0	0.29	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり		3.0	0.02	3.2	0.50	
1 階高のゆとり	住宅部分の階高が2.965m	3.0	0.60	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		3.0	0.40	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.02	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.0	0.97	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	4.4
1 建物の熱負荷抑制	年間断冷房負荷計算を実施。計算結果460以下で住宅設計性能評価等級4	5.0	0.39	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.20	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化	給湯機に潜熱回収型を採用。	4.8	0.39	-	-	4.8
集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)	ERR=1.4%	2.0		-	-	
集合住宅の評価		5.0		-	-	
4 効率的運用		3.0	0.01	-	-	3.0
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護		3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水	節水こまど節水型便器の採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.98	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.02	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.7	0.63	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	ブロック、パーティクルボード、ゴムマット	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分別可能。内装材と設備の錯綜なし。	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用	接着剤、シーリング材で4種類以上採用。	5.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	省エネ法に適合する断熱計画としている。LCCO2排出率を76%。	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	指導を満足する雨水貯留槽を確保。さらに、基準値を超えた場合も湧水ピットに雨水を一時的に貯留することが可能。	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	駐輪場2台/戸確保。荷捌きスペースの確保。駐車場は戸数の50%以上確保。	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2 壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	